

保健体育科学習指導案

指導者 柿手 祝彦

日時 令和3年10月20日(水) 第2校時(9:45~10:35)

年組 中学校第1学年1組 計40名

場所 中学校体育館

単元 現代的なリズムのダンス

教科等本来の魅力に迫るための手立て

指導にあたっては、「どうすれば、全員がダンスを好きになり、自分らしく踊ることができるようになるのか」この問いを単元全体の学習課題として設定し、毎時間、その内容を具体化していくよう単元デザインを構成した。この課題の達成を目指す中で、豊かに学ぶ生徒の姿を引き出すことができると考えている。また、学習環境の整備を行う。本単元では、生徒一人一人が自分や仲間の実態に応じて学習方法を選択できるよう、移動式ミラー、プロジェクター、iPad等を用意した。それぞれの学習の方法や効果を指導し、目的をもって学習方法を選択できるようにしたい。

本時の目標

全員がダンスの楽しさを味わえるようにするためにはどうすればよいのかを追求できる。

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点(◆評価)
1. 基本技能を活用した準備運動を行う。 ○アイソレーション・アップ・ダウン ○基本ステップ8個	○目的を意識して実施しているかを観察し、意識が低いようであれば、集合させ再確認を行う。
2. 学習課題をグループごとに発表する。 3. 課題達成に向けた学習を行う。	○残り時間の伝達や課題の達成状況の確認を助言し、課題解決に向けての意識を高める。 ◆全員が学習課題を達成できるように、工夫した行動ができたか。【思考・判断】
4. 振り返りをする。 ○全員達成できたかどうかを確認する。 ○課題を達成できた人の工夫点を共有する。	○全員が学習課題を達成できるように工夫している行動例を上げ、評価する。 ○生徒に課題を達成するために工夫したことを発言させる。 ◆グループで設定したテーマを伝えることができる作品をつくることのできたか。【技能】

授業実践の振り返り

本単元における技能では、A:モデル映像に創造的な動きを加えることができる、B:モデル映像通りの動きができる、C:モデル映像通りの動きができないという3段階の評価基準を設定した。その結果、前年度16グループ中、A評価は3グループであったが、本年度は7グループに増加した。本年度の単元では、全グループが同一の曲・コンセプトを目指したことにより、工夫改善点を共有することができた。また、タブレット端末によるダンス学習法を8つのステップに分けて具体的に指導を行った。さらに、「観る側を喜ばせるためには」という発問から、創造的な動きが生まれた。